

# 図書館 おおいた

大分県立図書館報

216

平成 14年 3月

## 「今こそ子ども読書の推進を！」

最近の新聞やテレビで報道される、悲惨で暗く堪え難い青少年事件の連続には驚く。

このことは科学技術の急速な発展により、何事も機械に頼ろうとする子どもたちの耐性の稀薄さと、テレビやテレビゲームの普及に伴う、文字離れ読書離れからくる感性の不足が大きな要因となっているように思う。

科学技術の進歩は確かに我々の日常生活を楽にし、テレビやテレビゲームなどの映像文化は、その内容や超現実性が次々と具体的な映像となって視覚にとびこんでくるので、その面では確かにおもしろく安易にとびつきやすいものだが、反面、読書によって養われる物事を深く考える力や、相手の気持ちや立場に立って考えようとする態度を、喪失させているように思えるのである。

人は読書をするにより多くのことばや文字に触れ、特に幼少年の場合は、その1冊の本の中で主人公と一体となって、考え、悩み、行動し、更にはその貴重な読書体験を通して、生きることの喜び、人生の尊さを学びとっていくものである。

とすると、その大切な幼少年期にこそ、多くの良書に親しむ必要があり、映像文化全盛の今だからこそ、学校、家庭、地域、国をあげて「幼少年読書運動」の積極的推進を心がけなければならないと思うのである。

紙数の関係でいきなり私案を申し述べさせていただくが、学校では教育課程への読書の時間の組み入れ。家庭では夕食後や就寝前の親子読書や、幼児・低学年児童に対しての絵本等の読み聞かせ。進級祝や誕生祝には本のプレゼント。外出時の待ち合わせ場所は書店やデパートの児童書売場とか、親が大人がいつも子どもと読書のことを念頭に、意図的、計画的に、読書環境を整えてやる必要があると思うのである。

感性は、読書によってこそ磨かれる 私の魂の叫びである。



小林 繁

### 新シリーズ

## ぺんちゃんの県立図書館ウォッチング (その6)

素朴な疑問 番外編 「返却のしおりやホームページにも出没するこの『ぺんちゃん』って、いったい何者？」

今回はぺんちゃんの原作者、司書の 宗 千晶さんに聞いてみました。



- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| Q1 ペンちゃんの生まれときっかけは？                 | Q5 どこに住んでいるの？                                  |
| A 返却しおりを作るときに何気なく考えたイラストが始まりです。     | A ブックポストの中です。毎朝、職員さんたちが、ポストを開けると図書館に遊びにやってきます。 |
| Q2 本名は？                             | Q6 二人の関係は？                                     |
| A ありません。通称「ペンちゃん」です。                | A 兄妹の関係のようですが、……。                              |
| Q3 性別は？                             | Q7 よくくっついている虫は何？                               |
| A 不詳です。周りで勝手に大が男の子、小が女の子と誤っているようです。 | A 「本の虫」と言って、二人のお友達です。                          |
| Q4 年齢は？                             | Q8 最後に利用者のみなさんへ一言お願いします。                       |
| A わかりません。                           | A これからもペンちゃんをよろしくね。                            |

### レファレンス事例集

## なんでんかんでん きいちみろう (その22)

Q 座前 という言葉は使えるか。座前順など。

- 日本国語大辞典 813.1 2000
- 日本民俗語大辞典 380 83
- 日本方言大辞典 818 89
- 大分方言 等々 K 818
- 柳田国男全集 380.8 97

利用者が持っている辞書に、座前 は載っていないので調べてほしい、と電話相談があった。

「今日はウチが座前じゃきい忙しい、娘に加勢を頼んだ。」

「今年ん春祭りの座前はどこじゃったかなあ？」

などと、大分では気軽に使っていると思っていた 座前(当番、座元、順番) という言葉が、 ~ で調べたが見当たらない。

ああ、大分方言なんだな、と思って郷土資料室にある をはじめ各地域の方言集を探したが記述がない。

図書館員に聞いてみると、40歳代は聞いたことがあると言い、50歳代半以上では、時には自分も使っていると言う。20~30歳代は、まったく意味がわからないと言う。しかし、ザマエ という言葉の響きは美しいとの意見もあった。

資料 で 座前 をそれぞれ調べると、座 には 宴席、歌会、連歌の会などの集会、又は仏事や神事を修行し、又教理を講義する集会又はそれを行う所 前 には かつてあった事柄、事例という意味もあったが、座前 という言葉は使われていなかった。

インターネットで単語検索すると、大分県三重町のデータで「社会生活」の「年齢集団という項に、ヨド(宵祭り)の晩に座前の家が神社で飯を炊いて一緒に食べる。等の記述があった。

三重町の風俗習慣の説明に 座前や座元 などの集会の風習が紹介されていたが、使い分けはしていない。 の全32巻の語句の索引の中にも、座前 は見当たらない。これは、大分地方で使われている言葉なのかと思えるが、まだまだ地域の風習や言語は未研究分野が多いようだ。

利用者は、全国的に使われていない言葉は、若い人に理解されないので書き残すのはやめようかと思う、とのことであった。

美しいなつかしい言葉が、こうして次々に消えていくのかと残念に思った一件だった。

当館郷土資料室では、県内で発行された出版物や大分県に関する資料を収集し、県民共有の財産として大切に保存しております。本や雑誌を出版された方はぜひお知らせください。

大分県立図書館郷土資料室 ☎ (097) 546-9984(直通))

大分県立図書館報第216号  
発行日 平成14年3月31日  
発行者 大分県立図書館  
大分市南王子町2丁目  
電話 (546) 9972  
印刷 大分プリント社